

流域下水道管破損事故対策検討委員会（第3回）

議事要旨

日時：2026年3月2日（月） 10時～12時

場所：TKP新橋カンファレンスセンター13階 カンファレンスルーム13N

1. 開会

- ・森田委員長および神奈川県竹内河川下水道部長より開会挨拶。

2. 議題

(1) 前回の議事について

事務局より、前回の議事について説明し、その内容が確認された。

(2) これまでの作業状況について

事務局より、これまでの作業状況について説明があり、議論が行われた。

○委員からの主な意見

- ・地下水位の評価にあたっては、季節変動を把握し、降雨との関係を整理することが望ましい。
- ・薬液注入作業の一次管理値について、妥当性を再確認することが望ましい。

(3) 前回委員会での意見と対応状況について

事務局より、前回委員会での意見と対応状況について説明があり、議論が行われた。

○委員からの主な意見

- ・空洞の有無の評価にあたっては、細粒分が事故現場から下流に流されたという可能性を踏まえて、土砂の収支が合うのか、確認すべき。
- ・ボーリング調査による空洞の有無の評価にあたっては、細粒分の比較ではなく、顕著な緩みの有無などで判断すべき。
- ・流された細粒分の確認にあたっては、処理場での沈砂量の変動の有無などを確認することが望ましい。
- ・引き続き、地下水や土砂の流入がないことをモニタリングし、不測の事態を防ぐためにリスクを十分に考慮して作業を進めるべき。
- ・管内部から復旧を行う上では、万が一、地盤の変状が確認された場合、どう対応するのかあらかじめ考えておくべき。
- ・緊急時モニタリングについては、他のメカニズムや状況の変化も考慮し、柔軟に対応を変えて進めるべき。
- ・東電管を一部撤去し、補強する際の施工の安全管理にあたっては、三次元での挙動も考えられることから、計測方法を強化することも検討しておくべき。

(4) 今後のスケジュールについて

事務局より、今後のスケジュールについて説明があり、議論が行われた。

また、本委員会は、今後も継続することとし、復旧状況等を勘案しながら、委員長とも相談の上、開催することを説明し、了承された。

(5) その他

特になし

以上